



学校だより

清流

立山町立立山中央小学校

令和4年7月

体験から学ぶこと！

1学期も残りわずかとなりました。これまで、子供たちに大きな事故や怪我もなく安全に過ごすことができています。これも保護者の皆様や地域の方々のおかげと感謝いたしております。さて、1学期は、1年生の遠足（魚津水族館他）、2年生の校外学習（町探検）や3年生の自転車教室（県交通公園にて）、4年生の来拝山登山等、校外で学習する機会が多くありました。教室での説明では十分に理解できないこと、分からないことを、実際に見たり聞いたりする体験をすることで、学習をより確かなものにすることができたと思います。学校では、体験をより深まりのあるものにするため、「見たこと」や「分かったこと」「調べたこと」をまとめたり、伝えたりする活動をしています。感想を書くことや新聞にまとめることは大切な学習です。さらに学習に必要なことは、「考える」と「伝える」ことです。校外学習実施後に「帰ったら、お家の人にたくさんお話をしてください」と子供たちに指導することがあります。その際に、どれくらい詳しく、分かりやすく伝えられるかはとても大切な学習です。これは、よく言われるプレゼンテーション力を身につけることであり、思考力や表現力を高めることにもつながります。8月初旬には6年生が立山登山、そして、下旬には5年生の宿泊学習があります。2学期以降もそれぞれの学年で体験活動を実施しますが、もしも、お子さんが簡単な感想しか言わなかった場合は、いろいろと質問をしてあげてください。きっと、たくさんのことを学び、感じているはずですよ。家族とのコミュニケーションを深める活動を、家庭だからこそできる学習のひとつに加えてみてください。



「ことばの大切さを子供たちに！」

言葉にはとても大きな力があります。一度、口にした言葉は何かの形で相手にも、自分にも影響を与えます。相手に対して言ってしまったマイナスの言葉や攻撃的な言葉は、人の心を深く傷つけ、その人の人生を変えてしまうことさえあります。また、「何気なく言ってしまった」、「本気ではなかった」としても、自ら口にした言葉は他人だけではなく、それは必ず自分に返ってきて、自分をも傷付けます。反対に、「ありがとう！」「すてきだね！」「いつも頑張っているね」などの言葉には、人の心も自分の心も明るくする力を持っていると言われています。

先日あるクラスの授業の中で「ふわふわ言葉」と「ちくちく言葉」について学習していました。

「ふわふわ言葉」とは、「ありがとう！」「大丈夫？」「いいね～」等の相手のことを思って言う温かい言葉のことです。逆に「チクチク言葉」は相手の心を傷付ける冷たい言葉のことです。相手に投げかけた言葉はいつか自分に返ってきます。誰かに、優しい「ふわふわ言葉」を使っていれば、いつか自分にそのような温かい言葉が返ってくるはずですよ。逆に、相手に冷たい「ちくちく言葉」を使っていれば、それもいつか自分に返ってきます。

子供たちには「もし自分が言われたらどんな気持ちができるだろうか？」と自分事として受け止め、相手の気持ちになって、考え、行動できる「思いやりの心」を育てていきたいと思っています。そのためには、学校、家庭、地域が一体となって取り組むことが不可欠です。子供たちの身近にいる我々大人が、よい手本となる必要があります。子供は大人の背中を見て育ちます。子供たちにも「言葉の大切さ」を伝え続けると同時に、その背中をしっかりと見せていきたいものです。

ひとつのことば

北原白秋

ひとつのことばで けんかして
ひとつのことばで なかなおり

ひとつのことばで 頭が下がり
ひとつのことばで 心が痛む

ひとつのことばで 楽しく笑い
ひとつのことばで 泣かされる

ひとつのことばは それぞれに
ひとつのこころを 持っている

きれいなことばは きれいな心
やさしいことばは やさしい心

ひとつのことばを 大切に
ひとつのことばを 美しく